

令和6年度 教学マネジメントに関するFD・SD研修

研修名

「和歌山大学のデータ・情報から、何が見えてくるのか」

主催

教学入試戦略推進本部

日時

令和6年7月17日（水）13時30分～16時30分

会場

和歌山大学栄谷キャンパス（対面開催）

参加者

37名（うち教員14名、職員23名）

研修の概要

近畿大学 IR・教育支援センターの竹中喜一准教授に來学いただき、採用からおおむね10年以内の教職員を対象に、和歌山大学の学生の学修成果や大学全体の教育成果の可視化と活用についての講演及びグループワークを対面で開催しました。

最初に竹中先生から、「学修者本位の教育の実現」という観点から自大学のデータ・情報を知る意義について説明いただき、その上で、どのようにすれば公表されているデータから教育や学習の特徴に関する情報を引き出し、他者にわかりやすい形で可視化して大学活動の改善に活用できるか、IRポスターの作成を例に解説いただきました。

引き続き5～6人程度のグループに分かれ、[和歌山大学 e-annual report](#) 等、大学で公表しているデータ・情報から和歌山大学の教育・学習の特徴と課題を表しているものを洗い出した上で、グループごとに和歌山大学の大学全体または学部等における学生の学修成果の特徴と課題を表すポスターを作成するグループワークを行いました。作成後は各グループのポスターについてそれぞれ発表してもらい、竹中先生に講評いただきました。

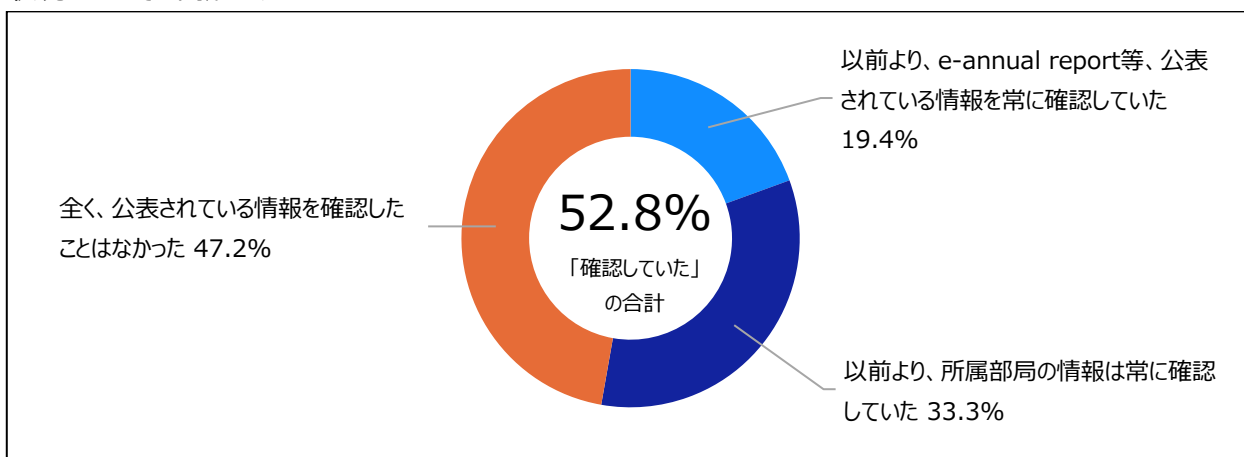
研修の様子



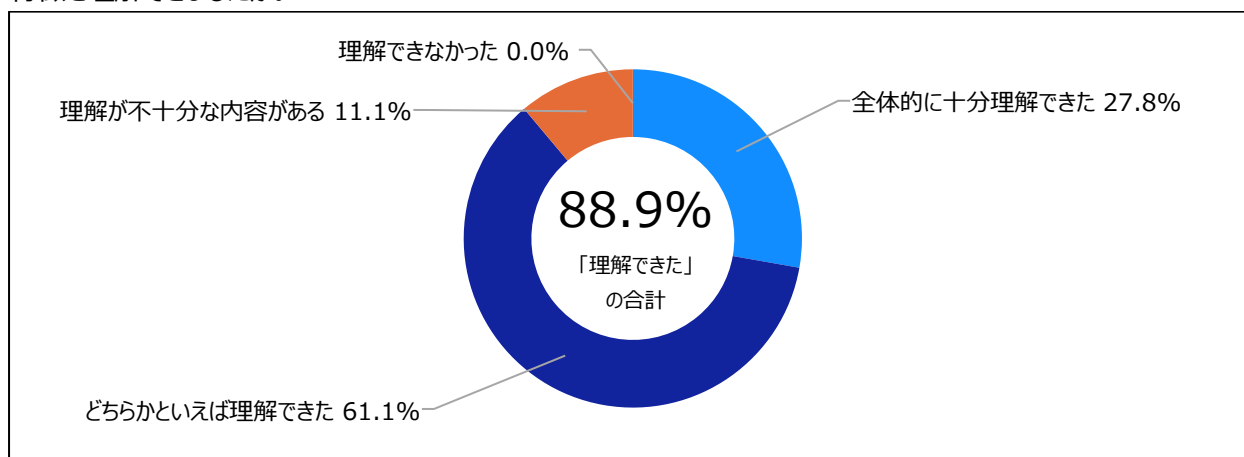
研修後アンケート結果

回答率 97.3% (参加者 37 名中 36 名回答)

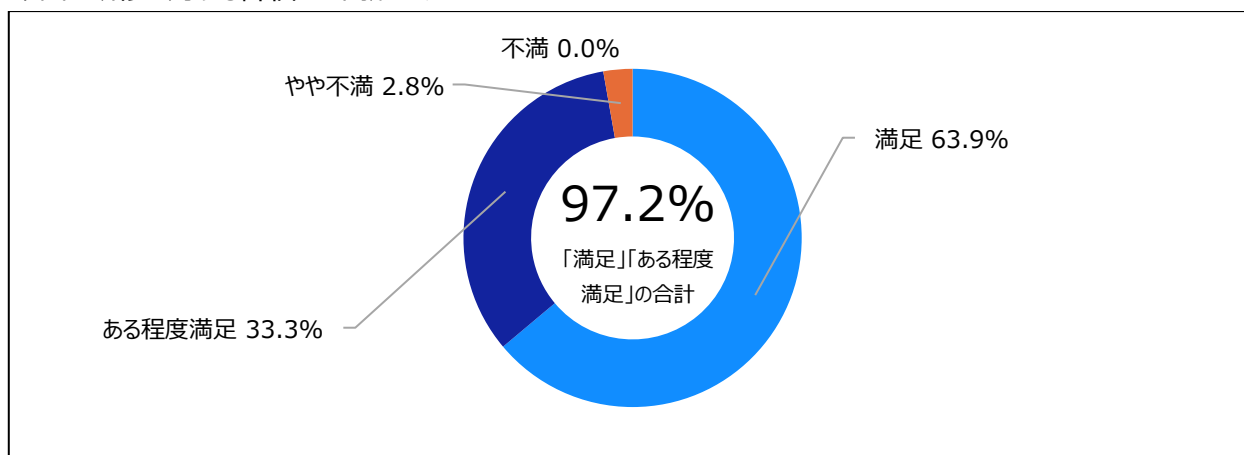
- 今回の研修テーマ「和歌山大学のデータ・情報から、何が見えてくるのか」について、これまでの情報収集の状況についてお聞かせください。



- 今回の研修を通して、本学の公表しているデータから本学学生の学修成果や大学全体の教育成果の特徴を理解できましたか。



● 今回の研修に対する評価をお聞かせください。



アンケート結果の総評

公表されている情報を確認したことがなかった参加者が約半数を占めていましたが、研修の中でデータの存在や特徴に関する情報の引き出し方について説明を受けたことで、グループワークによって本学における教育の特徴を理解できたとする参加者がほとんどとなりました。このことは、今後の教学マネジメントの担い手育成の観点からも良い結果と考えることができます。一方、「理解が不十分な内容がある」と回答をした参加者はすべて職員で、職務経験によって特徴理解が難しい状況があると予想されます。職員からは今後の要望として「和歌山大学と他大学のデータ比較」が挙げられており、時間があれば、他大学との比較によって目安を得てから具体的な特徴理解へと進む流れが望ましいかもしれません。

今回の研修に対して「満足」と評価した参加者からは、今後の研修についても「教員・職員ともに同じ認識を持てるようにしてほしい」との要望が挙げられています。FD・SD 研修を通して、教員と職員が同じデータや情報を共有し、それぞれの立場で意見を出し議論を重ねる機会を増やすことが重要だと考えます。